

## 新型コロナウイルス感染症に関する市長メッセージ

桑名市長の伊藤徳宇です。

三重県への「まん延防止等重点措置」が適用されてから、そして、桑名市の厳しい感染状況を鑑み、さらなる強い行動規制を敷くために発令した市独自の「感染拡大防止緊急措置」の発動から一週間が経ちました。そして早くも昨日、三重県など東海3県ほか「緊急事態宣言」の対象地域に追加されることが決定し、明日、27日から緊急事態措置が実施されます。

桑名市が先行して発令した「感染拡大防止緊急措置」は、この「緊急事態宣言」適用時を想定した対策を本市が先んじて講じることを目的としたものです。

このため、すでに市独自の緊急措置として、公共施設の閉鎖や利用制限、市の主催イベントの中止又は延期、中学部活動の原則中止や学校体育施設の一般利用休止などの感染拡大防止策を発動しており、これに加え、小中学校においては、新学期が始まる9月1日から12日までの間、分散登校やリモート学習等に切り替えるという厳しい措置を断行させていただきまします。児童・生徒、そして保護者の皆様にとって極めて影響の大きい措置となりますが、タブレット等の運用に工夫を凝らし、可能な限り“学びの保証”と“感染拡大防止対策”を両立してまいりますので、今回の措置へのご理解とご協力をお願いします。

今後は、これら市独自の対策を柔軟に運用しつつ、今回の「緊急事態宣言」の適用に伴って県が打ち出した対策を組み合わせることで、対策を効果的に進めてまいります。

こうした厳しい措置を矢継ぎ早に打ち出さざるを得なくなった要因は、言うまでもなく新型コロナウイルス感染症の爆発的な感染拡大にあります。昨日まで一週間の人口10万人あたりの本市の感染者数は約212人と、先週の市長メッセージ発信時から倍近く増加しており、桑名市を県に例えれば、沖縄県、東京都に次ぐ、全国ワースト3位という状況です。

そして、この感染者の急増に伴い、本市を始めとする北勢地域の医療体制は極度にひっ迫しています。感染しても入院できない自宅療養者が急増する中で、先日、県内で軽症の感染者が自宅療養中に命を落とすという、我々が最も恐れていた事態が発生しました。「平常時なら助けられる命が助けられなくなる。」こうしたあつてはならない事態が現実のものとなりつつあります。まさに災害時に等しい危機的状況です。

市民の皆様には、災害時と同じく、“自らと大切な人の命を守るための最善の行動を取る”ことをお願いします。現在まん延しているデルタ株は水疱瘡並みの驚異的な感染力を持っていると言われております。可能な限り人との接触を避ける必要があり、そのために不要不急の外出は避けてください。どうしても接触を避けられない家庭や職場などでは感染予防を徹底してください。ワクチンを2回接種し、2週間が経過していればかなりの確率で感染や重症化を避けられますが、この状況下では決して楽観視しないでください。ワクチンを接種していても、中には感染し重症化する例も見られますので、必ず感染予防の徹底をお願いします。

我々もお願いするばかりではなく、県や医師会等と連携し、早急に医療及び検査体制の強化に努めてまいります。とにかく今が正念場です。今を耐えていただき、この感染拡大の連鎖を断ち切ることに協力いただきますよう、強くお願い申し上げます。

ワクチン接種については、ワクチンの供給が不安定なため、市民のみなさまにご心配をおかけしていますが、現在のペースで接種が進めば10月末には希望する方の殆どがワクチンを2回接種できる見込みです。このワクチン接種状況を感染が収まった状態で迎えることによって、桑名市に感染前の穏やかな日常を取り戻したいと考えていますので、重ねて、感染予防・感染拡大防止対策にご協力賜われますようお願い申し上げます。

令和3年8月26日

桑名市長